

# 呉錦堂を語る会通信

NO.12 Oct. 2013

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2013.10.1



きんからかみ

うえだたかし

## 移情閣金唐紙の復元者 上田尚氏を東京のアトリエに訪ねる

台風崩れの熱帯性低気圧が日本列島を縦断した9月5日、大雨・洪水警報の中、東京行きを決行した。移情閣の金唐紙の復元者上田尚氏から復元工事の様子を聞きたいと思い立って数年、やっと念願が叶いこの日の訪問となったので、予定を変更したくなかった。

氏のアトリエは、目白の徳川ビレッジに続く閑静な住宅地の一角にあった。氏は京都出身で、今もご自宅は京都の竜安寺の近くとのことであるが、東京へ出てきて30年近く、この地を仕事場、アトリエにしてこられた。なお、氏は2005年、「国選定保存技術保持者」に選ばれ、また、2012年春の叙勲で旭日双光章を受章されている。（取材：2013年9月5日 文責：編集委員 橋雄三）



### 《上田さんと金唐紙の出会い》

**橋**：まず、上田さんと金唐紙の出会いからお聞きしたいのですが。

**上田**：私は50歳まで京都の印刷会社に勤めていました（\*1934年のお生まれ）。法隆寺の壁画とか、正倉院の宝物とかを内容とする美術出版が中心の会社でした。昭和59年だったでしょうか、独立しようと、会社を辞め、東京へ出てきました。それからずっと、ここをアトリエ、仕事場にしております。



アトリエの上田氏（訪問時、橋撮影）

とかへ行ったら断られたとのことで、私のところに見えました。この仕事の協会側の担当者が村上さん（\*村上裕道氏）だったのです。私と村上さんとの出会いです。村上さんは以前から金唐紙のことをご存知で、復元したいという意思をお持ちだったようですが、私にとっては、村上さんとの出会いが金唐紙との出会いでした。村上さんたちと一緒に試行錯誤して、2年半ほどかかって、やっと、金唐紙の復元にたどり着きました。

東京へ出てきた私の最初の仕事は重文旧日本郵船小樽支店の金唐紙の修復工事でした。（財）文化財建造物保存技術協会からこの話がありました。大日本印刷とか凸版印刷

### 《移情閣は金唐紙の面積が日本一》

**橋**：村上さんはその後、兵庫県の教育委員会に移り、移情閣の復原にかかわられることになった。そして、金唐紙の復元について上田さんに話が来たということなのではないでしょうか。

**上田**：移情閣の金唐紙復元工事の3、4年前だったでしょうか、京都駅で、偶然、村上さん（\*村上裕道氏。当時、兵庫県教育委員会社会教育文化財課主査）、塚原さん（\*塚原淳氏。当時、兵庫県土整備部公園緑地課主査）ご両人とお会いし、こんな話があるんだけど協力してもらえないかと……。塚原さんとはこの時、初めてお会いしたわけですが、お願いしようと思っていた矢先だったとおっしゃっていました。

**橋**：京都駅での出会いの後、話は進み、正式の依頼となったのですね。

**上田**：そうです。

**橋**：お引き受けになられた時の印象は？

**上田**：移情閣は、一階から三階まで、ほぼ全面に張りますので、大仕事になるなあと……。移情閣は、金唐紙の面積では日本一です。種類が多いということでは、呉の入船山記念館とか東京の旧岩崎家住宅洋館などがありますが。

### 《まず、版木棒の復元から》

**橋**：まず最初、何から始められたのですか。

**上田**：まず、版木棒の復元から始めました。移情閣の解体工事中に見つかった金唐紙の現物と金唐紙が映っている古い写真を基に模様のパターンを割り出し、版下を作りました。当時、コンピュー

ターによる製図があまり発達していなかったので苦勞しました。最終的に、版木は直径13.5cmと決まりました。他所と比べ細めです。幅は1メートルです。

次は版木の彫刻ですが、これは、江戸欄間の彫刻などで著名な岸本忠雄さんに頼みました。ロールに逆彫りするという難しい仕事です。約5か月かかりました。

橘：材質は桜と聞いておりますが。

上田：桜は、きめが細かく狂いがこない。そしてまた、彫刻しやすいのです。「紙の博物館」にある版木棒はすべて桜です。浮世絵版画も桜を使っておりますねえ。



版木棒の製作は桜の原木の選定から始まる  
(写真は上田氏提供)



移情閣で使用した版木棒と打ち込み用の刷毛  
(2001年発行『孫中山記念館(移情閣)概要』より転載)

《作業にはどんな工程があるのですか》

橘：作業にはどのような工程があるのですか。また、作業は何処でされたのですか。

上田：作業の工程としては、幅1メートル、長さ2メートルの特注の和紙に、まず、錫箔の「箔押し」、次に版木棒で「打ち込み」をし、これに、1回、2回、3回とワニスを塗り、最後が着色です。すべて、このビルの4階の部屋を借りてしました。

橘：私も入船山記念館で先生のご指導を受けて金唐紙作りを体験しましたが、20分ほどの打ち込みで腕がだるくなったことを覚えております。幅1メートル、長さ2メートルの和紙を打ち込むのにどれくらいの時間がかかるのですか。

上田：3、4人で交代しながら、常時、二人がかりで6～7時間かかります。ほぼ一日一枚のペースです。しっかり打ち込んでおかないと、年月が経つと、凹凸が戻ってしまうのです。移情閣の場合、約400枚作りました。梅雨時は作業ができませんし、その他、湿度の高い日は避けます。一年半近くかかりました。

橘：移情閣の金唐紙の基調の色は緑で、花の赤が印象的です。この彩色作業は誰が担当され、また、どれくらいの日数がかかったのですか。

上田：東京藝大の日本画の学生7、8人に頼みました。まず、花を避けて緑を塗り、その後、赤い花びらなど花を描いていくのですが、細かい作業で、約一年かかりました。

《移情閣での金唐紙「貼り込み」の苦勞》

橘：いよいよ現地での作業ということになるわけですが……。

上田：2000年の3月20日の納期まで約40日かかりました。京都の自宅から毎日通勤するのでは時間がもったいないので、全期間、私と息子を含め4人が舞子ビラに泊まり込んでおりました。

橘：金唐紙の「貼り込み」というのは、壁に直接、金唐紙を貼っていくのですか。

上田：壁の漆喰の上に和紙を袋貼りにし、その上に金唐紙を貼ります。袋貼りというのは、漆喰の上に、まず、和紙を直貼りして、その上に和紙をもう一枚、今度は縁だけ糊を付けて貼ります。こうすると、2枚の和紙が袋状になりますが、この上に金唐紙を貼るとやわらかい感じを出すことができるのです。

橘：その時期、どんなご苦勞がありましたか。

上田：まず最初、困ったのは壁の漆喰の乾きでした。私たちの仕事、「貼り込み」は、壁の漆喰が乾いてから始まるのですが、漆喰の乾きが遅く、納期に間に合うか気をもみました。また、この作業工程で一番注意しないとイケないのは糊の品質です。防腐剤とか化学薬品が入っていると接着力の劣化が進みやすいのです。現場で薄める水にも気を遣いました。移情閣の水道水は合格でした。

作業についてですが、2月、3月の寒い時期で、



特に3階は寒くて寒くて、頻繁にトイレに行きたくなって、1階まで下りるのが面倒でした。それから、螺旋階段は脚立が不安定で、高い天井近く、振り返ってする作業に苦労しました。



移情閣での作業風景（写真は上田氏提供）



復元工事完工後の移情閣二階  
(2001年発行『孫中山記念館(移情閣)概要』より転載)

《わが子のように、今も気になる移情閣の金唐紙》

橘：上田さんは、移情閣以外にも、これまで、「重要文化財旧林家住宅」、「重要文化財旧呉鎮守府司令長官官舎」、「重要文化財旧岩崎家住宅洋館」ほかで、金唐紙の修復工事を手掛けてこられました。完工後のご自身の作品について、安否、消息は気になるでしょうねえ。

上田：それは、わが子のようにいつも気になっています。その後、移情閣へも、2、3度行ってあります。金唐紙の耀きに多少気になる箇所もありますが、総じて健在です。

橘：今日は、興味深いお話を聞くことができました。ありがとうございました。

上記文章中、（\*）の表記は、編集委員が付記しました。

#### 移情閣の金唐紙復元作業を担った学生たち

版木棒での「打ち込み」から、筆での「彩色」、移情閣での「貼り込み」まで、実際の作業を担ったのは、上田さんもおっしゃっているように、東京藝術大学日本画専攻の学生さんたちでした。その中心の一人が後藤仁さんです。後藤さんは、「後藤仁（GOTO JIN）のアトリエ」というホームページをお持ちです。ここで、移情閣での貼り込み作業の貴重な画像を見ることができます。ぜひ、ご覧ください。なお、後藤仁氏は、現在、日本画家、絵本画家としてご活躍です。

#### 「金唐紙」は上田氏の命名

明治の初め、和紙を用い、ヨーロッパの高級壁装材「金唐革」に模して作ったのが「金唐革紙（きんからかわし）」の始まりです。そして、一度は途絶えてしまった金唐革紙の製作技術を村上裕道氏らと一緒に、現代に蘇らせたのが、上田尚氏です。残されている資料が少ないなか、和紙の種類、箔の厚み、刷毛…など、試行錯誤しながらの復元作業だったのです。上田氏は、これを「金唐紙」と名付けました。従って、「金唐紙」とは、氏が代表をつとめる金唐紙研究所の作品・製品をいい、一般的名称は「金唐革紙」です。

#### 旧岩崎家住宅に移情閣が出現？

この度、上田氏の手で、旧岩崎邸庭園の撞球室の金唐革紙が修復され、特別公開されていると聞いていたので、上田氏訪問前のわずかな時間を利用して参観した。その洋館2階で、子どもの背丈ほどの、金唐紙が

貼られた移情閣の模型を見てびっくりした。4年前の来訪時にはなかったものです。あとで、上田氏に聞くと、「移情閣の金唐紙復元工事のあと作っていたもので、今回、初めて展示しました」とおっしゃっていた。



旧岩崎家住宅に展示された移情閣の模型

# 大人物小故事 (3)

我的外公吴锦堂 曹愛徳著

当通信9号、10号に続き、この12号では第2話「孝子」を載せました。お楽しみください。この頁は2014年4月17日に追加いたしました。(編集委員 橘雄三)

## 孝子

我外公16岁时，生母就因病早逝，没过多久父亲又娶唐氏为妻，后妈进门后我外公的日子就多了一层苦难。不管炎热的夏天，寒风刺骨的冬天，外公都要出门上山砍柴，捡少了回家就要少吃挨饿。第二年，后妈生了个小弟弟，洗尿布的任务就落在我外公的肩上，每天洗尿布要到村梢头的一条小河里，对于一个男孩子，有时难免会洗不干净，后妈就要罚我外公重洗。冬天的河水都结冰了，要用砖头把它敲开，再慢慢地洗，等洗完了我外公的手都冻僵了，一个个手指像胡萝卜似的通红通红。还没来得及喘气就听到后妈的急喊声，就哆哆嗦索地拿着尿布回家。后妈在晒尿布的时候发现少了一块，就追问我外公，但我外公真的不知道，尿布是沉到河里去了呢还是丢了，他只好不回答，后妈就更生气，于是骂得更凶，还冤枉我外公做事偷懒，不用心，罚我外公跪在地上反省，怕邻居听见，还不准我外公哭。我妈说此时外公的心在流泪，但是外公就是倔强，也不顶嘴。等到父亲回来，外公也不告状，不哭泣，更不计较后妈的恶，就像什么都没有发生似地跑进厨房去帮父亲和后妈盛饭，自己乖乖的抱着小弟弟，外公真的待后母如同生母，村民们都夸我外公有孝道，将来一定有出息。

多少年后，外公去日本经商，开设商号经营实业，非常繁忙，但是他在百忙中专程回老家为后母做寿，带回去许多银子，向后妈下跪祝寿。后妈想到过去对外公的种种虐待，心里非常惭愧，便要向外公下跪，表示歉意。外公急忙阻拦，还说：你养我长大，你就是我的亲妈，后妈的泪水像泉涌，激动得半天说不出话来。在场的亲友们都夸我外公是世上少有的大孝子。

## 孝子

私の祖父が16歳の時、生母は病気で早逝し、間もなく父親は唐氏を娶りました。継母が家に入ると、祖父の日々は一層苦難の多いものとなりました。炎暑の夏も、寒風骨刺す冬も、祖父は山へ芝刈りに出かけなければならず、拾った柴が少ないと、食事を減らされ、お腹が空きました。二年目、継母は弟を生み、おむつ洗いが祖父の仕事になり、毎日、おむつを洗いに村はずれの小さな川へ行かなければなりません。そして、男の子にとって、洗っても、汚れが残りがちでしたが、継母は、罰として洗い直させました。冬の日川の一面氷が張り、レンガで氷を叩き割り、それから、丁寧に洗濯し、洗濯し終ると、祖父の手は、冷たさで感覚が無くなり、全ての指はニンジンのように真っ赤になりました。一休みする間もなく、継母の急かし叫ぶ声が聞こえると、震えながらおむつを持って家へ帰りました。継母は、おむつを干すとき、一つ少なくなっていることに気づき、祖父に問いかけました。しかし、祖父は、おむつが川に沈んでしまったのか、あるいは失くしたのか、本当にわからないので、黙っているしかなく、継母は更に怒って、ひどくのりしり、また、祖父が怠けていたとか、用心しなかったと無実の罪を着せ、罰として祖父を地面にひざまずかせて反省させ、隣に聞こえるのを気にして、祖父が泣くのを許しませんでした。私の母は、この時、お祖父さんは心で涙を流していたが、屈しもしせず、たてつきもしなかったと言いました。父親が帰って来ても、祖父は訴えもせず、しくしく泣きもせず、継母のひどい仕打ちにこだわらず、何もなかったように台所へ走って行って、お父さんと継母にご飯を盛り、自分は静かに弟を抱き、本当に、継母に生母のように尽くしました。村人たちはみんな、祖父は孝行だ、将来、きっと、見込みがあると褒めました。

何年かして、祖父は日本へ渡り、商業を営み、商店を開設し、事業を経営し、非常に多忙でありましたが、多忙な中、継母の誕生祝のためにわざわざ故郷に帰り、たくさんのお金を携え、継母にひざまずいて誕生日を祝いました。継母はかつて、祖父に種々虐待をしたことを思い出し、心から恥じて、祖父の前にひざまずき詫言しました。祖父は、あわててさえぎり、「あなたが私を育ててくれました。あなたは私の実の母親です」と言いました。継母は涙をとめどなく流し、感動し、長いこと話ができませんでした。その場にいた親戚や友人はみんな、祖父は世上まれな大孝子だと褒めました。



呉錦堂の生家